

信州高山村 雁田山東壁

令和7年6月7日 RCT/K

今年も春から秋は信州の実家で過ごすことになった。里山の山開きや畑などの作業がようやく一段落し、そろそろクライミングの方に目を向けようかという気分になってきた。

しかしながら気分とは裏腹に、この冬に痛めた肩の故障の回復が遅々として進まず、まだまだ思い切りぶら下げられない状態にあり、思案の結果、以前小布施町雁田山のボルダリングサーキットをした際に見つけた東壁のクラックをトライしに行こうかと思いついた。

当時は小布施側の登山口から登り、尾根から回り込むように岩場を見てきたのだが、今回は麓からピークまで真っすぐにアルパインの正攻法スタイルで登ってみようと考え、登山道の無い高山村側からのアプローチを探ることにした。

その後、アプローチの確認と整備、ルートのブッシュと浮石落としなどに2日間ほど要したが、まずまず登れる状態になったところで、天気の良いさそうな日を見計らって登りに出かけた。

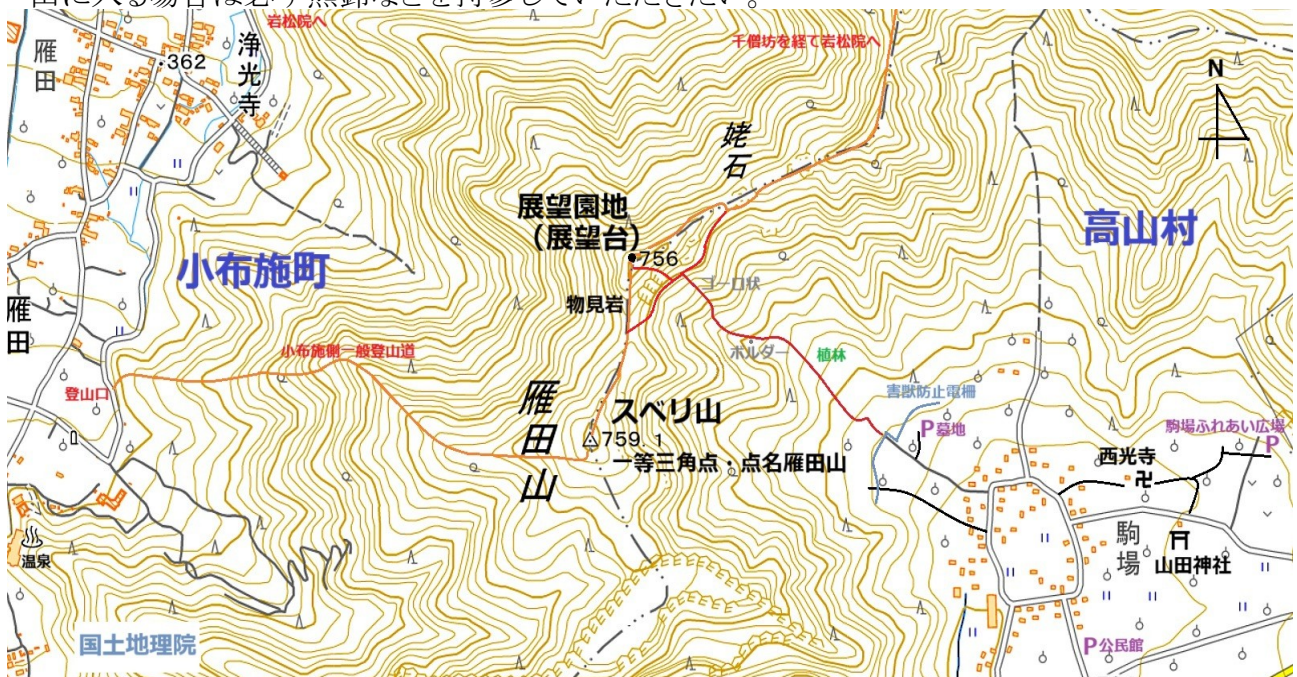
岩場は高差20m程、岩質は溶結凝灰岩、全体的にはクラックとスラブ状フェイス(一部ハング)で構成されている。岩壁全体は幅が広く、スポーツルートまで設定しようとするればまだまだ可能性は高いが、アプローチが高山村側からは荒れており、小布施側からは遠いなど開拓には少々難あり、今のところアルパイン系の岩場と考えた方がよい。

トポ中の2番と4番のルートは終了点から展望園地ピークに抜けられるが、シャックルの終了点を全ルートに設置したので、各ルートをショートルートとしてトライもできる。

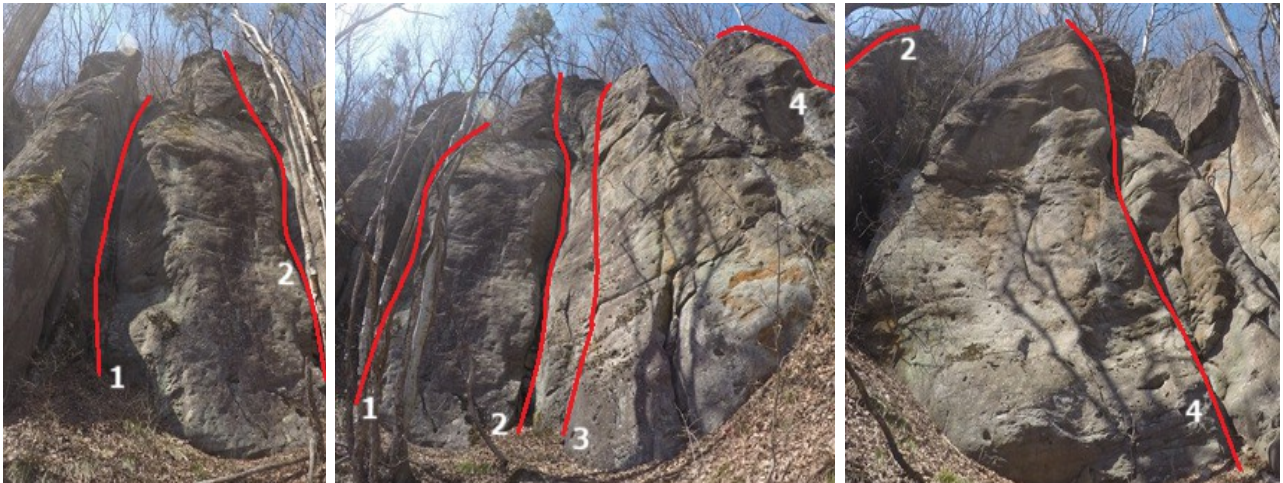
アクセスは、高山村の駒場地区を目指して行く。駐車場については、今回墓地用の駐車場を利用させてもらったが、お彼岸とお盆の頃は厳禁である。公民館の駐車場は利用可能か不明、もし利用の場合は札をかけておいた方がよいが、前者を含め地元からクレームが出るようなら駐車しない方がよい。問題とならない場所は駒場ふれあいの里の駐車場で、少し遠くなるが数台止められ、また簡易トイレもあるので、気になるならここに停めるのが一番よい。何れにしても利用の場合は果物泥棒などの不審者と見られないよう、雁田山に登っている旨を記した札などをかけておくとともに、地元の方への積極的な挨拶に心がけたい。

アプローチは、電柵から植林帯に入り、テープを目印に左方向に進んで行くと、荒れた林業用の山道に出るのでテープを見ながら進んで行く。左にボルダリーのあるところから暫く登ると、少し開けた雑木の小尾根の末端に着く。そこから右の斜面を植林帯とのコンタクトラインに沿って登って行き最後のゴーロ状を少し登ると、突然目の前に岩壁が現れる。

山に入る場合は必ず熊鈴などを持参していただきたい。



《トポ》（発見時に撮影した写真を使用）



1. 大チムニー(5.8) NP 下部は左の壁に走るクラックにプロテクションをとる。終了点は上部の木を利用する。終了点から上は灌木の生えた急な土手なので終了点までのショートルートとして登ったほうが良い。

2. 遠つ人(5.10a/b) NP オフウィズス&ハンドクラック 全体的には見栄えが良く長いオフウィズスクラックで、部分的にハンドジャムも効く。終了点は1本松。登攀終了後、灌木混じりの樹林帯を展望園地ピークまで抜けられる。斜面の泥が滑る時はコンテで上がった方が良い。展望園地の東屋の少し南側に抜けられる。

3. C・Sチムニー(5.7) NP チムニー 終了点はチムニー上のカンテ右にある木を利用する。岩上部には抜けられない。下部はプロテクションが取りにくい。途中からC・Sにスリングでプロテクションがとれるが、水平クラックもあって小さめのカムも使える。

4. 大和の赤子(5.9) NP ハンドジャム中心のクラック 左右の壁のホールドも使えて快適。登攀終了後、灌木混じりの樹林帯を展望園地ピークまで抜けられる。斜面の泥が滑る時はコンテで上がった方が良い。終了点から少し上がり、左に踏み跡をトラヴァースすると、2ルートの踏み跡に合流する。